

20回以上登った山だがいつもと違うルートで下山。途中、落ち葉で道が不明瞭となり完全に道迷い。だんだん暗くなり、スマホの明かりを頼りに駐車場に着いたのは午後8時だった。



樹林帯は、落ち葉の量が異常に多く、登山道が不明瞭で、ふと気づくとルートを外れていた。鉄則どおり引き返せばよかったが、何を思ったか目印を探せばいいと進んでしまう。完全に道を見失ってからコンパスを使用するも辺りは樹木に覆われてコンパスでの位置確認できず。

歩いた道を引き返すも、歩いているうちにも不安になって「とにかく降りなければ」という考えが先行し、また下りだすが、登山道でない場所は、まともに歩けない。草木を乗り越え石をまたぎ、ペースもどんどん落ちて疲労と焦りだけが蓄積する。秋は夕暮れが早く、空が赤くなると一層焦る。山は人工の明かりが無い上に木々にさえぎられるので暗くなるのは本当に早い、なんとか下山できた。

日帰りの予定なので、ヘッドライトを忘れ、仕方なくスマホの懐中電灯機能を使い、キャンプ場に着いたのは8時過ぎてしまった。

（HP参照し要約）

慣れた、山域でも登山道を変えれば全く知らない場所になる。加えて、落ち葉で道が不明瞭となりヘッドライトも持っていない。道迷いの焦りは冷静さを失い、「とにかく降りなければ」という気持ちになってしまい、「負のスパイラル」に陥ってしまう。私も気を付けたいと思う事例である。